

—にがうりー

にがうり

発病・加害時期
発病・加害最盛期

作型・病害虫名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
					▲ 定植				▼ 収穫				
普通通													
斑点病													
うどんこ病													
炭疽病													
ベト病													
アブランシ類													
ハダニ類													
ミナミキイロアザミウマ													
ウリノメイガ(ワタヘリクロノメイガ)													
フキノメイガ(アズキノメイガ)													
ヨトウムシ類													
オオタバコガ													

斑点病

留意事項

- 多湿条件下で発生が多い。

防除方法

- 排水を良好にし、過湿を避ける。
- 被害茎葉を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 窒素質肥料の過用を避ける。
- 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - トッヅンM水和剤 1 【1500~2000倍 前日／5回】
 - ダコニール1000 M 5 【1000倍 前日／4回】
 - スミブレンド水和剤 2 10 【2000倍 7日／2回】

うどんこ病

留意事項

- 高温乾燥時に発病しやすい。また、生育後半に発病しやすい。
- 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- アミスター20フロアブルは薬害の恐れがあるため、浸透性を高める展着剤を加用しない。QoI剤 (11)、SDHI剤 (7) は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

一にがうりー

使用に努める。

防除方法

- 1 窒素質肥料の多用、肥効切れを避ける。
- 2 被害葉を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ダコニール1000 【1000倍 前日／4回】
 - ・トリフミン水和剤 【3000倍 前日／3回】
 - ・アミスター20フロアブル 【2000倍 7日／3回】
 - ・アフェットフロアブル 【2000倍 前日／3回】
 - ・パレード20フロアブル 【2000～4000倍 前日／3回】

炭疽病 (たんそびょう)

留意事項

- 1 アミスター20フロアブルは、薬害の恐れがあるため、浸透性を高める展着剤を加用しない。QoI剤 () は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 排水を良好にする。
- 3 わらまたはポリフィルムなどでマルチングする。
- 4 窒素質肥料の過用を避ける。
- 5 支柱についている古い葉や、巻きひげが発生源になることもあるので除去する。
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・アミスター20フロアブル 【2000倍 7日／3回】
 - ・トップジンM水和剤 【1500～2000倍 前日／5回】
 - ・ダコニール1000 【1000倍 前日／4回】

べと病

留意事項

- 1 高温、多湿を好み、露地栽培では雨が続くと多発する。
- 2 アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブルは薬害の恐れがあるため、浸透性を高める展着剤を加用しない。QoI剤 () は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 排水を良好にし、加湿を避ける。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

-にがうり-

- 2 被害茎葉を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 3 肥効切れしないように肥培管理に注意する。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・アミスター20フロアブル **1 1** 【2000倍 7日／3回】
 - ・ストロビーフロアブル **1 1** 【3000倍 7日／3回】
 - ・ダコニール1000 **M 5** 【1000倍 前日／4回】

アブラムシ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 露地栽培では、シルバーポリフィルムでマルチングする。
- 2 施設では、開口部に寒冷しゃを張り、侵入を防止する。
- 3 下記の薬剤を施用する。
 - ・ダントツ粒剤 **4 A** 【1～2g／株 植穴処理土壤混和 定植時／1回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ダントツ水溶剤 **4 A** 【2000～4000倍 前日／3回】
 - ・モスピラン顆粒水溶剤 効 **4 A** 【4000倍 前日／3回】
 - ・トレボン乳剤 **3 A** 【1000倍 前日／3回】
 - ・コルト顆粒水和剤 **9 B** 【4000倍 前日／3回】
 - ・マラソン乳剤 **1 B** 【1000倍 前日／3回】

ハダニ類

留意事項

- 1 高温時に発生が多い。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ニッソラン水和剤 **1 0 A** 【2000～3000倍 前日／2回】
 - ・ダニトロンフロアブル **2 1 A** 【2000倍 3日／1回】
 - ・サンヨール **一** 【500倍 前日／4回】

ミナミキイロアザミウマ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

-にがうり-

防除方法

- 1 ほ場周辺の除草を行う。
- 2 うね面をポリフィルム等でマルチングし、土中で蛹化するのを防ぐ。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
 - ・ダントツ水溶剤 **4 A** 【2000~4000倍 前日／3回】
 - ・コテツフロアブル 劇 **1 3** 【2000倍 前日／2回】
 - ・カスケード乳剤 **1 5** 【アザミウマ類 2000~4000倍 前日／4回】
 - ・ハチハチ乳剤 劇 **2 1 A** 【アザミウマ類 1000倍 前日／2回】

ウリノメイガ（ワタヘリクロノメイガ）

留意事項

- 1 幼虫は葉をつづり合わせ、その内で食害する。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・トレボン乳剤 **3 A** 【1000倍 前日／3回】
 - ・カスケード乳剤 **1 5** 【2000~4000倍 前日／4回】
 - ・フェニックス顆粒水和剤 **2 8** 【2000~4000倍 前日／3回】
 - ・B T 剤 **1 1 A** (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

フキノメイガ（アズキノメイガ）

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・アディオン乳剤 **3 A** 【2000~3000倍 前日／3回】

ヨトウムシ類

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・プレオフロアブル **U N** 【ハスモンヨトウ 1000倍 前日／2回】
 - ・トレボン乳剤 **3 A** 【1000倍 前日／3回】
 - ・アディオン乳剤 **3 A** 【2000~3000倍 前日／3回】
 - ・フェニックス顆粒水和剤 **2 8** 【ハスモンヨトウ 2000~4000倍 前日／3回】
 - ・B T 剤 **1 1 A** (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

オオタバコガ

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

-にがうり-

- ・アファーム乳剤 6 【2000倍 3日／2回】
- ・B T 剤 11A (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

ネコブセンチュウ

防除方法

1 下記の薬剤を施用する。

- ・**バスアミド微粒剤、ガスターD微粒剤 効 8F**
【20～30kg／10a 均一に散布して土壤と混和 は種または定植21日前／1回】
- ・**ネマトリンエース粒剤 1B**
【15～20kg／10a 全面土壤混和 は種前または定植前／1回】
- ・**ネマキック粒剤 1B**
【20kg／10a 全面土壤混和 定植前／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。